

寛文六（一六六六）年

（二月二〇日）

霜月廿日

一、米子大屋甚吉竹嶋江廻候船言艘帰帆之刻、難風二遭、朝鮮之地江乗懸、舟八破損候へ共、人数無別儀候付、朝鮮より釜山浦迄送届、釜山浦二宗对馬殿御番所有之二付、对馬迄送届、則对馬守殿より江戸へ以使者御窺之由、為御届御状大坂御蔵屋敷迄参、大坂より態飛脚二為持越、則御返事此方之飛脚二持せ遣事候。

（二月三日）

同日

一、伯州米子之者、竹嶋へ渡海帰帆之刻、被放于風、朝鮮之地へ漂着、宗对馬守殿より御老中へ御伺候付、被成御奉書候故、為御礼江戸へ岡嶋勘丞被仰付、御目見之事。

寛文七（一六六七）年

（三月九日）

同日

一、大屋九右衛門手代朝鮮国へ就漂着、大坂へ彼者共召連二被遣段忝存、為御礼御当地へ罷越二付て、御目見被仰付事。

（付箋）

大屋九右衛門手代朝鮮へ漂着

（三月一七日）

三月十七日

一、朝鮮国漂着之米子之者、大坂より罷越道中之賄銀、此方より被遣事。

元禄五（一六九二）年

（四月九日）

一、荒尾平左衛門より為使安養寺猪之助差越、今度米子村川市兵衛船如例年竹嶋江渡海候処、彼嶋二朝鮮之獵舟流来、則朝鮮人毛居申鮑大分二取申候故最早獵毛無之二付、村川船帰帆仕二付、於米子御役人共遂吟味候趣、并船頭兩人当地江差越候旨、従平左衛門断二付、則於会所山崎主馬・大御目付出座、船頭申分相改、猶又口上書申付事。此儀は別帳一札二記、筆筒二入置候。依之日記令省略事。

(五月一〇日)

五月二日之御飛脚申来ル

一、竹嶋江朝鮮人參候儀、御月番阿部豊後守殿江御尋被成候処、朝鮮人彼嶋可罷歸と申候へ八、何之御構も無之儀と被仰出由、去ル二日御飛脚二和田左門より申来候。右之趣、赤座寛右衛門ヲ以、去ル十三日二荒尾修理江申聞候事。

(八月二日)

一、米子村川市兵衛竹嶋渡海二付、例年鮑代内借シ式貫目御借シ被成候処、当年は朝鮮人嶋二罷在、獵無之二付て、戌年市兵衛渡海番迄御延被遣、其節相談可有之事。

元禄六(一六九三)年

(二月一九日)

一、米子大屋九右衛門来月上旬竹嶋渡海仕候付、如例年海渡、鉄砲七挺拜借仕度由願、是又九右衛門先年渡海之節、鉄砲七挺之内言挺海へ取落シ申候付、六挺二ては獵難仕候付、川市兵衛鉄砲之内成共言挺御借シ被下様二と願申二付、例之通熊沢四郎左衛門相届候間、鉄砲持參仕様二荒尾修理へ申渡事。

(四月二八日)

一、例年竹嶋江鮑取二參候船渡海候処、彼嶋二唐人居申候付て、獵不罷成戻り候付、唐人式人船二乗せ參候由、此節荒尾修理米子二罷越居申候故、修理より申越。依之江戸へ七日割之御飛脚差出入。江戸より御左右有之内八、唐人大屋九右衛門手前二差置、大和組中之内作廻人申付、足輕番人二、付置候様二修理へ申遣事。

(五月二一日)

一、米子唐人あんびじゃん、気晴二出可申由、色々わやく申候由、修理迄申来候へ共、外江出候儀不通二無用と差函申事。且又酒給申度由申候へ共、是又昼夜二三升より上は無用之由申達事。

右相談之上ヲ以、修理迄申達事。

(付箋)

米子大屋藤兵衛御呼寄せ、竹島唐人様子聞被仰付  
大屋九右衛門手代朝鮮へ漂着

同日

一、米子大屋藤兵衛呼二遣、夜前罷越候。近日御目付中口ヲ聞被申答之事。

(五月二二日)

同日

控 帳

一、米子大屋藤兵衛、并船頭黒兵衛・平兵衛兩人、以上三人明日於会所御目附并山崎主馬、今度竹嶋唐人之儀様子聞申様二申渡事。

(五月二六日)

同日

一、從江戸今月十六日之御飛脚到来、朝鮮人之儀公儀江御窺之處、御聞届、長崎江送可被遣由被仰出之旨申来、此儀二付今日不時之寄合於將監宅二相談有之事。箕浦藏人・河嶋源七・山崎主馬・御目付共参会之事。

同日

一、長崎江之御使者人柄遂吟味、山田兵左衛門・平井甚右衛門兩人申渡之事。右之御使者老人二ても不苦間敷候へ共、途中先方二ても手支二有之候へ八如何と存、兩人申渡也。右之御使者之儀、江戸より御家老共存寄次第二可申渡旨、志摩より申来候へ共、大殿様御在国之儀故、相談達御耳申付候事。

同日

一、道中為用心、番廻り二て八無之候へ共、本道外科兩様相勤候付て、竹間玄碩申付事。

同日

一、今度朝鮮人長崎江被遣儀、何も遂相談、海上無心元付て、陸地被遣筈二相極、万々其御用意夫々之役人江申渡候事。

同日

一、朝鮮人米子より爰元へ呼寄申節、米子組之内兩人道中召連參候様二荒尾修理江申渡事。

同日

一、去年毛利惣右衛門長崎江被遣候節、彼地町人下見助右衛門諸事肝煎、先方之首尾も宜敷二付、此度唐人參節、万々御頼之由、先達て山崎主馬より以飛脚金子千疋被遣候事。  
右朝鮮人一巻、別帳二記候付て、控令省略也。

(五月二八日)

同日

一、朝鮮人米子より參候節、見物猥無之様二と御家中へ相触候趣、如左。今度朝鮮人米子より參候節、又八此元発足之節、家来末々見物罷出候とも、猥無之様堅可被申付候。其内女わらんへ見物罷出儀は可為無用、朝鮮人狼藉も可致様子相聞候間、被得其意、組中へも此旨可被申渡候。以上。

五月廿八日

同日

一、米子より当地迄之道筋江も、右之通相触候様二刑馬へも申渡候事。且又泊々二て其所之庄屋・年寄罷出、不寝番等堅申付候様二と刑馬へ申聞也。

(五月二九日)

一、朝鮮人之儀二付て、今日も於將監宅不時之寄合申談事。道中御條目等、井上甚五郎呼寄相極事。

同日

一、朝鮮人米子より参候節、会所江差置、御目付共罷出裁判仕様ニ申渡事。  
同日

一、今夕子下刻、米子より宿送りにて、朝鮮人今朝米子発足、明日爰元江到着申由、注進有之事。

(六月一日)

朔日

一、朝鮮人今晚米子より参着。今夕八大和所二宿、明日会所江参申事。

(六月二日)

同日

一、朝鮮人今晚会所江参、其前式部・将監・日向同道にて、大和宅江参逢申事。

(六月五日)

一、長崎江之御使者山田兵左衛門・平井甚右衛門、式部宅江呼寄、長崎御奉行江之御書、并道中御條目御書出等、右兩人江相談申候。弥明後七日発足候様ニと申聞候事。

(六月七日)

一、今辰之下刻、朝鮮人兩人当地発足候事。委細別帳ニ有之事。

同日

一、朝鮮人当地罷立候儀、江戸へ申上ため、今日より九日割之御飛脚差出候事。

同日

一、竹嶋江渡海初候儀様子、先頃於江戸松平美濃守殿御尋之由二付、委細村川・大屋江相尋候て申越候様ニと志摩より申来。依之村川市兵衛儀修理へ申候て、呼寄、委書付差出候付、写候て、御奉書之写、宗对馬殿より荒尾内匠へ之御状之写、并書付両通、江戸へ今日之飛脚ニ差遣事。且又山田兵左衛門・平井甚右衛門へも道中迄、右之書付御奉書之写、宗对馬殿より荒尾内匠へ御状之写等、右兩人へ逢次第ニ参候様ニと飛脚遣候事。自然長崎にて御奉行衆御尋候節之ため也。

(七月二八日)

一、長崎より注進、山田兵左衛門・平井甚右衛門、朝鮮人道中無異事致同道、先月晦日長崎江到着、翌朔日朝鮮人無異儀御奉行所江相渡由、先達て注進申来事。

(九月一九日)

一、山田兵左衛門・平井甚右衛門、今度朝鮮人送長崎江罷越、苦勞仕由被仰出之旨、志州より奉書之趣兩人へ申渡事。竹間玄碩其外御步行方未々迄無懈怠相勉候段、聞召被届旨、石原市右衛門へ申渡事。

(十二月二日)

一、米子大屋藤兵衛再三願候付て、拝借銀四貫五百目被仰付旨、村山治部右衛門江申渡事。

(五月九日)

一、米子大屋・村川竹嶋江渡海候処、遭難風途中より戻り申旨注進有之事。

元禄七(一六九四)年

(五月十九日)

一、竹嶋渡海之船頭米子より参二付、一昨日於会所山崎主馬并御目付共遂吟味候処、先達て差越候口上書二相違無之二付、今日米子へ戻シ申事。

(二月二六日)

一、米子大屋・村川、来春、例年之通竹嶋渡海仕候八、拜借奉願候。若去年之通朝鮮人居申候八、如何様二可仕哉と願申二付、返答、拜借之儀は度々之儀故不被仰付候。嶋へ渡海之儀は商売之儀二候へ八、御留難被成候間、勝手次第二候。朝鮮人居申時は、裁判之儀之差凶八難成申、三浦刑馬ヲ以修理迄申達入事。

元禄九(一六九六)年

(六月五日)

一、朝鮮船赤崎浦江着岸之旨、注進有之。諸事為作舞山崎主馬罷越候様二と申渡、早速罷越候。朝鮮人願之儀有之由二付、為聞届御目付平井金左衛門罷越候様二と申渡、是又早速罷越候。御郡奉行野口治兵衛・谷庄左衛門兩人儀も、早々参、作廻仕様二と申付、罷越事。

(六月二二日)

一、朝鮮人之儀二付、今日志摩宅二て寄合有之事。

(六月二四日)

一、朝鮮人青屋より今日加路東禅寺江呼寄置候事。道中山崎主馬・平井金左衛門・御郡奉行兩人附候て参候事。

(六月二五日)

一、朝鮮人之儀二付、今日志摩宅江式部并蔵人・造酒介・御目付寄合申事。

同日

一、朝鮮人加路二罷有内、諸事作廻人二御步行頭・御郡奉行申合、忝人充相勤候様二と申渡事。

(七月二六日)

一、異国船之儀二付、御奉書出候。右之趣、山崎主馬江御両国浦々江相触候様申渡候。米子

控 帳

八橋江毛御奉書之写、今日相渡事。

(七月一九日)

一、殿様今日午下刻御帰城被遊候。御家中之面々、例之所江御迎二罷出候事。

(七月三日)

一、和田瀬兵衛儀、朝鮮人作廻人二被仰付之。於御櫓申渡事。

(八月一日)

一、米子大屋・村川、向後竹嶋渡海之儀無用之旨、御奉書之写、荒尾修理江相渡之事。

(八月六日)

一、朝鮮人今朝加路出船帰帆二付、江戸へ御届之為御使者広沢半右衛門被仰付、依之、於御書院御目見被仰付、式部罷出事。

(八月一九日)

一、朝鮮船着岸之儀二付、宗次郎殿より為御使者鈴木権平と申仁被參、昨十八日之夜用ケ瀬一宿二付、御徒飯嶋夫太夫被遣、遠方被參苦勞二思召由、併朝鮮船無恙帰帆申候間、当地江被參二不及候旨被仰遣、御帷子三被遣候。通詞兩人召連參候二付、金子式切充、通詞江被遣候。御使者通詞共二拝領物達て御断申上、受納不仕候事。但、通詞八町人之由。

(九月一九日)

一、加路東禅寺、当春朝鮮人被差置候付て、白銀式枚東禅寺住持江被遣候旨、山田佐助江申渡事。

同日

一、青屋二罷有候医師齋藤徳元、朝鮮人參候節、青屋ヨリ爰元江毛附參、其上朝鮮人相煩候節、療治仕、旁以金子式切被遣候。此旨黒田監物以、御郡奉行江申渡事。

(十一月三日)

一、米子村川塩運上之儀、奉願二付、左之通被仰付之、荒尾修理江喜多村八兵衛以申達事。

覚

一、米子塩運上、年中五百目差上候様被仰付事。

附、塩舌斗二付、口錢五文充二相定候八、塩俵数毛可參旨、其通二被仰付事。

正徳六(一七一六)年

(二月四日)

一、町医者齋藤徳玄、先年朝鮮人氣多郡青屋江致着岸之節、致筆談、其已後朝鮮人之内病人有之、薬を用病人致快氣、右之通御用毛相勤候付、最前より被召出被下様奉願候。然共只今御入用無之二付、不被召出候。右御奉公毛申上候付、来年頭より町医者並之御礼被仰付

控 帳

由被仰出、今日浅田角左衛門江申渡候事。